

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)中央区小笠3丁目計画

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.2
Q1 室内環境							0.40			3.5
1 音環境						3.0	0.15	3.3	1.00	3.2
1.1 室内騒音レベル		目標値				3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音						3.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能		T-1サッシを採用				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		ΔLL(Ⅱ)-3(Lr-50)を採用 A-08:仕上表(2)				3.0	-	5.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		ΔLH(Ⅱ)-2(Lr-40)を採用 A-08:仕上表(2)				3.0	-	4.0	0.20	
1.3 吸音						3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境						2.0	0.35	4.0	1.00	3.5
2.1 室温制御						3.0	0.50	4.0	1.00	
1 室温		一般的な室温を実現するための設備容量を設置している				3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能		断熱性能等級4 A-07:建築概要・仕上表(1)				3.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性						3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						2.2	0.25	3.7	1.00	3.4
3.1 昼光利用						2.4	0.30	4.0	0.35	
1 昼光率		住居部分:3.25% 昼光率算定図				2.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		南面に窓がある				-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		昼光利用設備無し				3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						2.0	0.30	4.0	0.35	
1 昼光制御		住居部分:庇とカーテンで制御 A-40:矩計図(1)				2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						1.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	0.29	
4 空気環境						3.8	0.25	4.0	1.00	3.9
4.1 発生源対策						5.0	0.60	5.0	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆以上の建材をほぼ全面的に採用 A-08:仕上表(2)				5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気						2.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量		建築基準法を満たす換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能						3.0	-	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		汚染源のない方向に設置している				1.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.5
1 機能性						3.7	0.40	4.2	1.00	4.0
1.1 機能性・使いやすさ						4.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性						3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		住居の各居室にGbit対応 E-44:電話配管配線・情報配管設備系				3.0	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法を満たしている 特定施設変更事前協議書				4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観		住居部:居間天井高=2.45m				3.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						3.0	-	-	-	
3 内装計画		評価する取り組みが2項目				3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理						4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		評価する取り組みが6項目 A-27~32:各階平面図、A-07:建築概				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		評価する取り組みが9項目 A-27~32:各階平面図				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		基準法に定められた耐震性を有する				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		揺れを抑える装置を導入していない				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.6	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		劣化対策等級2 A-07:建築概要・仕上表(1)				4.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ほぼ全てに垂鉛鉄板を採用				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給排水管にB種を採用 M-02:凡例・排水樹表				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		更新必要間隔15年				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		評価する取り組みが1つ				3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスB				3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.6	0.30	3.1	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			-	-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり	階高=2.91m A-37:断面図(1)	3.0	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		居室の積載荷重=1,800N/m ²	3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.6	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	中央式空調設備をもたない	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕更新できる M-18:A・Bタイプ平面詳	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造部材だけでなく仕上材を痛めることなく修繕更新できる E-	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく修繕更新できる E-44:電話配管配線・情報	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	更新ルートはあるが更新時に維持不能	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペースが確保されていない	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		票かポイント3	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		専有部が外皮に2方向面している	3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.69	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	取り組みなし	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	設備毎の取扱説明書が居住者に手渡されている	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.6
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ、節水型便器を採用 添付カタログ参照	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用の仕組みなし	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	雑排水等を利用していない	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.2	0.60	-	-	2.2
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.13	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.25	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.25	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.13	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			3.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		確認していない	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0を採用	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	ODP=0を採用	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止		排出基準以下	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	雨水排出抑制対策を実施していない	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	基準を満たしている	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	評価ポイント3 A-26:配置図、特定集合住宅における自動車保管	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	評価ポイント3	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-	
1	騒音		-	-	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.67	-	-	
1	風害の抑制	風害対策に対する要請がない	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	日影規制を満たしている	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.33	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	評価ポイント4 光害対策ガイドライン参照	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	対策を行っていない	3.0	0.30	-	-	